

「物流・産業」部門幹事会（2月26日） 主要意見要旨

（全体）

- ・ 静岡県全体の貨物増には、企業誘致による創貨の取組が重要。
- ・ H25 年度実施予定のコンテナ流調をもとに最新の流動状況を分析し、対策を再度検討すべき。
- ・ 港湾情報の発信力を強化する必要がある。

（清水港）

- ・ 静清バイパスの立体交差化（清水立体）は、ボトルネック解消に向けた喫緊の課題。道路アクセスが強化されれば清水港のセールスポイントとなる。
- ・ 新興津ふ頭への物流機能の集約にあわせ、行政機関（管理局、C I Q等）の移転を考える必要があるのではないか（津波避難ビルとしても必要）。

（田子の浦港）

- ・ パルプの見通しの根拠は明確にしておくこと。

（御前崎港）

- ・ 荷動き予測が非常にしづらい港である。その時々需要にきちんと対応していくことが大事。
- ・ 他港流出貨物の集荷が課題。
- ・ 清水港との相乗効果を狙う。